


# 2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【宮城県】

学校名【登米市立石越小学校】

1 実践テーマ	【 IV・V 】
2 実施対象者	登米市立石越小学校 1年37名 2年28名 3年32名 4年34名 5年32名 6年31名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (学活, 総合) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	・障害者の方々への理解を深め、互いに認め合う心情を育てる。 ・スポーツの魅力に気付かせ、自分の夢に向かって努力し自分を高めようとする心情を育てる。
5 取組内容	<p>1 講話, 体験【あすチャレ!スクール】 ◆講師: 永尾 嘉章 氏 (車椅子陸上) ◆参加対象: 全校児童</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>これまでのパラリンピック陸上への取組, パラリンピックに7度出場された経験から, 「可能性に挑戦する勇氣」「夢や目標を持つ力」など熱いメッセージを届けていただいた。また, 実際に児童と職員が車椅子でのリレーを体験した。</p> </div> </div> <p>2 講話, 体験【HEROs ACADEMY for school】 (ヒーローズアカデミーフォースクール) ◆講師: 根木 慎志 氏 (車椅子バスケットボール) ◆参加対象: 全校児童</p>



シドニーパラリンピック  
車椅子バスケットボール主  
将の根木慎志さんをお招き  
して、車椅子バスケットを実際  
に体験した。「諦めない心」  
の講演は、子どもたち一人  
一人の心に響いた。

### 3 体験【キャップハンディ体験】

◆講師：社会福祉協議会

◆参加対象：5年児童

高齢者疑似体験やパラスポーツのボッチャを体験した。



### 4 講話【オリンピック・パラリンピック 教育プログラム】

◆講師：明治乳業

◆参加対象：5, 6年児童



身近な食べ物（ヨーグルト、チョコレート）を通じて、他国の小学生の生活を知ることができた。また、世界の国と日本の違い、日本とのつながりを知ることにもつながった。

## 6 主な成果

○「目標にあきらめずに挑戦することを学んだ。一つ一つのことを積み重ねて頑張りたい。将来はオリンピックに行きたい。」という感想をもつ児童もいた。

○トップアスリートも初めからできたわけではなく、何度も挫折と挑戦をしながら努力し続けた結果、夢を叶えることにつながったことが体験談から分かった。

○これまで見たことや体験したことのないスポーツについて、現役の選手も来校し、実際にプレーする様子を見たり、選手と一緒にプレーしたりする体験を行ったことで、直接的な体験ができた。

## 7 実践において工夫した点 (事業の特色)

○事前指導の時間を確保し、オリンピック・パラリンピックに向けての興味・関心がより高まるようにした。

○児童への啓発用の資料としていただいた「I'm POSSIBLE」をオープンスペースや校長室前に置いて、自由に見られるようにし、オリンピック・パラリンピックへの関心を高められるようにした。

○振り返りの時間を各学年で確保し、自分が学んだことや感じたことをまとめさせ、これからの学校生活で生かしていけるよう目標を立てさせた。

8主な課題等	<p>○トップアスリートとの交流や体験で、スポーツそのものに興味・関心をもって応援していこうとする児童が多くなった。しかし、全校児童がオリンピック全体にまで興味をもっていくところまでにはいかなかった。</p> <p>○より充実した事業になるように、事前学習の内容をより高めていく必要がある。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○東京2020に向けて、オリンピック・パラリンピック教育を継続していく。</p>